頑張ると罰ゲーム

小牧市立岩崎中学校　３年

中二の夏、僕は志望校を決めた。「この高校に入るために勉強を頑張りたい！」声高らかに宣言する僕に「受けるのは構わないけれど、通わせてあげることはできないよ」と母が言った。「え？？？」僕の頭の中は、はてなマークだ。何でだよ。

数年前から国と県の補助金を合わせて高等学校授業料実質無償化が始まった。昔は凄くお金がかかるイメージだった私立高校。「今は私立高校も公立高校もかかるお金は同じくらい」と学校の先生が言っていたのを僕は覚えている。母はこの制度を知らないのか？

僕の志望する私立高校は駅近の立地、施設も充実していて部活動も活発、勉強面でも補習や自習室開放など面倒見がいいことで有名だ。大学の合格実績も申し分なし！学校の補習をうまく活用して、塾無しで大学へ行ければ、公立高校へ通うよりも安く済む場合だってあるらしい。熱く語る僕に「ウチは無償化の対象外。人より多く税金を納める家庭には罰ゲームらしいよ」と母は笑った。僕の頭の中は大混乱だ。意味がわからない。

今年に入って岸田総理の「異次元の少子化対策」発言が世間をにぎわせた。同じ頃、東京の小池都知事が言っていた「所得制限は子育てに対する罰ゲーム」あれのこと？うちはそこまで裕福ではないが…。世帯年収が一定額を超えると、児童手当や高校の授業料無償化が対象外になるらしい。財源は税金なのにその税金を多く納めている家庭は対象外ってそもそもおかしくない？「おかしいね」また母が笑った。僕は笑えない。僕の人生がかかっている。

僕は将来何か手に職をつけて、いつかは起業したいという夢がある。そのためには、今から頑張って勉強して志望する高校に合格して、そこでまたさらに頑張って努力して少しでもいい大学に受かって資格もたくさん取って社会に出たらバリバリ働いて、でも待てよ？そうすると年収が高くなってまた罰ゲームじゃないか。

それなら、そこそこ手を抜いて学生生活は楽しんで、ギリギリ手当がもらえる給料でゆるりと暮らす生活も悪くないな。そう考えるのは僕だけだろうか。いや、そうではないはずだ。

「頑張ると罰ゲーム」この制度、未来ある若者のやる気の芽をつんでいないか？

2020年の出生数が八十万人を下回り、少子化対策に本腰を入れはじめた日本政府。皆は「罰ゲーム」のある国で子育てをしたいと思うだろうか？

いろいろな事情で働けない人達をフォローする生活保護制度、高齢者が老後を安心して暮らせる年金制度、たくさん稼いだらたくさん納税できる累進課税制度、どれも素晴らしい制度だと僕は思う。日本という国は、皆が支え合って成り立っている。新型コロナウイルスの影響で営業自粛を余儀なくされた飲食店への協力金、経営難に陥った中小企業への補助金、国民全員に配られたアベノマスク、一律十万円給付金、ここ数年で予定外にたくさんの税金が使われた。大切な税金、決して使い方を間違えてはいけない。

「子は宝」とよく言われる。どんな環境に生まれ育った子も平等であるべきだ。お金の有り無しに関係なく、努力したことが報われる世の中であってほしいと僕は思う。

皆が安心して子育てできる国に。さあ、これからの日本に期待！僕達若者もどんどん声をあげていこう！！